

令和元年度第3回北広島市総合計画推進委員会 会議録

日 時	令和元年10月9日(水) 13:30～15:30
会 場	北広島市役所 3階 3D会議室
出席委員	鈴木聡士委員長、武者加苗委員、天羽浩委員、谷本雄司委員、桂裕章委員
欠席委員	なし
市出席者	川村企画財政部長、佐藤総合計画課長、熊谷主査

1 開会

委員の全員が出席していることから、会議は成立していることを確認

2 会議録署名委員の選出

委員長の指名により、武者委員を令和元年度第3回推進委員会会議録の署名委員としたい旨提案があり、了承された。

3 議事

(1) 分野別計画案 第3～4章に係る審議

第3章について

事務局：(資料1の説明)

委員長：何か御意見等があればお願いしたい。

【ボールパークの防災備蓄機能】

A委員：ボールパークに関する防災拠点機能とは、避難所か、それとも何かの拠点となるか。

事務局：避難所ではない。市民の避難所は小学校等である。ボールパークでは防災備蓄機能を担い、北海道と連携して広域的な備蓄も行う。広域防災拠点となり、災害が起きた場所へ備蓄物を運ぶということが想定されている。

【防災食育センターについて】

A委員：食料の備蓄を防災食育センター1箇所に集約し過ぎるとまずいのではないかというような意見が総合計画等特別委員会で出たようだが。

事務局：食料の備蓄を分散した方が良いという意見と、集約した方が配送を考えたときに良いという意見の2つあり、現在検討中である。

B委員：防災食育センターは、この分野別計画案を作成する前から建設するという方向性で決まっていたものか。

事務局：方向性は決まっていたため、この分野別計画案に突然書いたというものではない。

B委員：防災、食育、給食の機能も担うということか。

事務局：そうである。平時は給食をつくり、そこからトラックで学校に運ぶ。食料の備蓄もあり、有事にはそこで炊き出しできるものである。

B委員：備蓄している食料は、災害がなければ当然古くなっていくため、それを給食等で食べるなど、食育としても使うか。

事務局：古くなった食料の備蓄は、防災教室等で配布しているが、防災食育センターの施設内において食育の啓発にも使うことができる。

【災害時の企業連携について】

A委員：防災に関連して、停電した際、電気自動車での蓄電活用を考えているか。また、企業との提携について記載はあるか。

事務局：電気に関しては、小型発電機等で対応する想定であるが、その他について各種民間企業との協定を締結しており、31 ページの施策2の2つ目の黒丸部分に、「企業等と連携した協定体制の整備を推進」ということで記載している。

A委員：企業と具体的にどのような連携をしていくのかイメージが湧かないため、わかりやすく記載すべきと考える。

事務局：イメージが湧くように、少し書き加えることを検討する。

【防災に係る個別計画との整合性等について】

委員長：市として防災に関する計画はあるか。

事務局：地域防災計画がある。対応指針が記載されているものだが、胆振東部地震の際、計画に載っていない事項も出てきたため、改訂するための検証作業に入っている。

委員長：この総合計画と、地域防災計画との整合性をとっていくという視点は必要ではないか。

事務局：地域防災計画を含め、この総合計画の下に、各個別計画が位置付けられるため、この総合計画に即した形で個別計画が作られるということになる。総合計画の策定と同じ時期に、策定や改訂すべき個別計画が多いため、担当部署と整合性を図りながら進めている。

令和元年度第3回北広島市総合計画推進委員会 会議録

委員長：昨年の地震の際、市民の関心事は電気だった。この総合計画にどこまで細かく書き込むかという問題はあるが、ハード面での整理と、ソフト面での民間企業との提携等についてもある程度しっかり書いた方が良い。

【防災と災害について】

C委員：31～32ページで第1節として防災対策と災害復興の推進というように、防災と災害と2つ言葉が出てきている。防災とは災害が起こらないようにすることであると思うが、記載内容が炊き出しや避難所への食料配送やライフラインの確保ということで、災害が起きた後の話になっているが、ここに記載のあることは、防災対策に当たるのか。

事務局：ここでは、災害が起きる前も起きた後も、両方まとめて防災という位置付けとしている。

委員長：防災の意味というのは、色々な定義があるかと思う。基本的に国語辞典的には、防ぐことだが、色々な資料を見ていくと、もし災害が起きてしまったときに、緊急対応をどうするかということも含めて防災という言葉が使われている。土木学会あたりが、この防災という言葉と、減災という言葉をよく使う。起きた災害は仕方がないが、災害が起きたときにどれだけダメージを減らせるのかということの考え方だと思うので、その点を整理した方が良い。

C委員：減災という言葉を使っている総合計画もあるようなので、検討いただきたい。

【消防体制について】

A委員：消防救急体制だが、ボールパークが来ると対応すべき人口がもっと増える。試合の際は数万人になるが、体制はどうしていくか。

事務局：配置、シフト等について検討している段階である。

事務局：現状札幌ドームでは、基本的に3万人を超える試合の際、消防隊1隊が常設されている。それ以外は、要請に基づいて行くとのこと。ボールパークに関しては、各施設自体に非常に優れた消防設備を整備する方向で進んでいる。また、広域でも対応するため札幌市も含めて話をしている。今後、119番の通信指令業務が広域で共同運用されることもあることから、幅広い対応が可能となる。消防通信指令業務の指令台は、数億、数十億単位の施設になる。各自治体の指令台を一元化することで、コストの面でも全然違ってくる。

事務局：札幌市を含む他の消防と協定を締結しており、市内の救急車が全て出動した場合、札幌市などから出動する場合もある。

A委員：通信指令業務の広域化などの実施年は、総合計画に記載しないのか。

事務局：総合計画は、計画期間内に何をしていくかということでの記載の仕方としており、細かい実施年次については、総合計画の下の推進計画に掲載することを想定している。

【人権意識と外国人について】

B委員：37～38 ページで、人権に関して、これから増えるであろう外国人などの多様性についての記載があると良いのではないかと。今後、人口は増えないと思うが、減っていく中でもベストは何なのかを考えると良い。外国人労働者の受入れ、その家族のことも関わってくる。今後10年を考える場合、人権のところには外国人という言葉を入れてはいいかがか。これから、短期ではなく長期での滞在も多くなってくると思うので、小学校等でも人権教育等が必要になってくると思う。

事務局：外国人の子どもがなかなか学校になじめず、親との連絡の取りづらさ等といった課題が既に出てきている。庁内の各課で、外国人に関わる課題はどのようなものがあるか集約し、対応についてこれから検討していく。

委員長：もしかしたら第5章の多文化共生に関する部分かもしれないが、重要になってくることである。

第4章について

事務局：(資料1の説明)

委員長：何か御意見等があればお願いしたい。

【都市機能の整備について】

D委員：都市機能の整備は、この総合計画の中でハイライトだと思う。市民からも注目されている。特に注目したいのは新駅と、今のJR北広島駅周辺の整備である。

40ページの施策の7つ目にコンパクトなまちづくりを実現ということで容積率の緩和等が書かれているが、容積率の緩和だけにとどまらず、土地利用も抜本的に見直さなければならない。北広島団地地区は、開発してから50年程度経っている。用途地域も変更すべきである。第1種低層住居専用地域が駅の近くまで設定されているのは、今となっては良くない。また、駅前の北広公園の横(臨時駐車場)は、50年間遊休地化している。北広公園に関しても、あまり使われていないことも多く、駅の目の前で利便性が高い場所でもあることから北広公園の今後の在り方についても検討すべきである。これらを考えていかなければ、人口を増やすと言っても受け皿がないことになってしまう。

また、ボールパークに係る新駅に関し、橋上駅にした場合、その北側の活用についても検討していくべきだ。広島工業団地についても開発してから50年経っている。エルフィンロードから見てクレーンや大型車両があり、基本的方向で言っている魅力ある都市景観づくりとはなっていない、基本的方向に反している。新駅と国道274号線の間については、今後、地価がとも上がることになり、そうなると今の所有者も高く売ることができるはずだ。新駅北側の用途地域を変更し、居住系とし、高層マンション等を誘導すべきである。

事務局：都市計画マスタープランにも関わってくるが、総合計画への書き込みとなると、第4章第1節の施策の中では、各地区の土地利用の見直しを進めるということを書き込む程度になるかと思う。

D委員：総合計画にどこまで書けるかということはあるが、我々総合計画推進委員としては、それくらいの覚悟を持って提言していかなければならない。この土地利用の関係は、人口増加等に向けて欠かせない検討事項である。

委員長：個人的には、私もかなり想いは近いが、総合計画にどこまで細かく書き入れることができるかというのは、難しい問題であると思う。かなり重要な意見である。

【みなし仮設住宅(防災関係)、空き家活用について】

B委員：第3章の防災のときに口頭で説明があったみなし仮設住宅とは、どのようなものか。

事務局：みなし仮設住宅は、市がつくった仮設住宅ではなく、既存の民間アパートに入ってもらって、その家賃を行政が負担するものである。

B委員：非常にいい試みだと思うので、空き家への適切な対応ということと絡めて、防災面と関連した空き家の活用を考えられたら良いと思う。また、防災関係は補助金も得られやすいということがあれば、そういった面からも有効なのではないかと思う。

【輪厚パーキングエリア周辺の土地利用について】

委員長：40 ページの施策に記載がある輪厚パーキングエリア周辺の土地利用について、物流上など良い場所なので地域特性を生かして何かを誘致するということであると思うが、例えば既存のパーキングエリア内にある商業施設を西部地区などの地域住民の方が気軽に使うことができるような土地利用も検討して良いのではないかと。特に西部地区は、店が少ないため、既存の施設をより有効活用できることになるのではないかと。

【公共交通について】

委員長：44 ページの公共交通について、札幌市は交通計画の改訂で、自前でMaaS的なものを作ろうとしている。ただ、海外から来た方は、アプリではなく、現在ほとんどがグーグルマップを使っている。アプリなど全てを自前で作るよりは、今ある施設や世界的なプラットフォームを見て、協働して情報をうまく開示すると、経費をかけなくても、海外の方にとって便利な交通手段の情報等を提供できる。リオに行ったときに、地域の公共交通の情報がオープンにされていなかったため、困ったことがあった。今後、このようなことを進めていく上での視点として、今あるものを上手く活用し、市の情報や交通情報を開示するだけで実は済むという可能性があるため、そのような姿勢で臨むことも参考としてほしい。

【空き家対策等の先進事例について】

D委員：神奈川県川崎市の黒川駅の駅前のコンパクトなまちづくり、黒川のネスティングパークという、小田急の黒川駅前ににぎわいをつくった事例がある。それを事務局でも調べていただきたい。

住み替え支援の空き家対策については、東京都の国分寺市でのエンディングノートの事例が参考になる。空き家対策部署にエンディングノートというソフト事業を絡ませて、その中に不動産の処分に関する欄を設けて、空き家増加の抑制対策を行ったことで効果が上がった。

【北広島駅を中心にしたにぎわいの創出について】

A委員：39 ページの現況と課題に、ボールパークへのアクセス拠点として、北広島駅を中心

にしたにぎわいの創出とあるが、新駅ができたときに、この位置付けは変わらないか。両方並行してにぎわい作りをしていくのか。

事務局：新駅に関するまちづくりと連坦性を持たせた一体的なまちづくりという言葉が抜けている。どちらもつながることで、このエリア全体の価値が上がるという考え方で進めている。現駅、新駅を別々に書いている。この1.5キロ区間をどうするかについては、言葉を整理する。

委員長：具体的に書き込むのは、決まっていない段階で非常に難しいと思う。基本的な考え方としては、共存させ、それぞれの役割をしっかりと分担する、連携するということだと思う。

D委員：上野幌駅は、札幌市内の土地にあるのか。

事務局：駅舎は札幌市内である。

D委員：上野幌駅及びその周辺についても検討が必要かと思う。

事務局：上野幌駅の利用客の約7割は北広島市民など本市と何らかの関わりある方(日大高校、北広島西高校、福祉施設等)が使っている状況である。駅舎は札幌市内の区域だが、利用者は北広島市民が多く、上野幌駅のバリアフリー化等の要望は何十年と続いている。この部分を書き込むことで、北広島市としてのスタンスを見せている。

【単語の説明について】

C委員：M a a S等のような言葉には説明文が必要だと思う。

事務局：第1章から第6章までまとめて注釈をつけるか、または、難しい言葉をそもそも使うのか使わないのかということは、今後検討していく。

【ボールパークまでの移動手段について】

C委員：北広島駅と新駅等を含めたボールパークまでのアクセス手段の資料では、徒歩・自転車の利用は2,500人となっているが、どのような意味か。

事務局：公共交通と車に頼らない来場者がこの程度いるという推計値である。札幌ドームの利用形態をモデルにして計算しており、来場者の約7%という計算である。

C委員：46 ページに自転車道の整備とあるが、ボールパークへのアクセスも加味しているのか。

事務局：現在、歩行者の動線調査をしている。試合の際、歩行者と自転車が混在し、何千人という人が通ると、どのような危険性があるのか、また、今後どうするのかということについて検討している。

【ゴルフ場の記述について】

C委員：53～54 ページに緑の充実とある。北広島市の魅力は全国的にも有名なゴルフ場がたくさんあることである。計画上触れられないか。

事務局：ゴルフ場は、緑というよりは、観光のコンテンツとして捉えている。ゴルフ場利用税としても年間 2 億円程あり本市の貴重な財源となっている。ここに書くのがよいかは検討する。

委員長：緑が豊かであるということは住環境に関わり、これは魅力であり、移住のプラスの要因になる。対外的なPR、居住人口の増加という部分にも結びつくのだが、そういった観点が抜けている文章となっている。ある学会の論文では、シニアほど、緑豊かな環境を移住先に求めるものだと明確に出ている。もう少し何かしら書き入れるといい。

【レクの森について】

A委員：レクの森の運営は市が行っているか。

事務局：国の土地だが運営は市で行っている。ただし、アスレチック施設は、老朽化している。

A委員：観光資源として整備すれば集客できるのではないか。レクの森のアスレチック施設は、札幌近辺にはあまりないのではないか。

事務局：ボールパークとの連携も含めて、今後検討していく。

【羊ヶ丘通りの延伸ルートについて】

D委員：46 ページの羊ヶ丘通りの延伸ルートについて計画はあるか。

事務局：計画としてはないが、恵庭市と連携して、北海道と延伸に向けて協議をしている状況である。

(2) 基本構想案の基本目標に係る審議

事務局：（基本構想の基本目標に係る審議資料説明）

【平和の文言について】

委員長：基本目標(3)に「平和な」というキーワードがあった方がいいと総合計画等特別委員会で意見があったとのことだが、どうか。「平和」を入れてはどうかとなっただけは、どういったことか。

事務局：資料2の分野別計画案の37ページの現況と課題の部分にも記載しているが、平成8年9月に広島市の広島平和記念公園の平和の灯(ともしび)を分火したまちである北広島ということで、平和の尊さを引き継いでいくべきでないかというような視点から、こういった御意見を頂いたものとする。

D委員：平和は当たり前のことであるため、市の総合計画の基本目標にわざわざ入れるのはどうかと思う。また、基本目標(3)に記載がある「安全・安心な生活」というのは、平和があるからこそである。平和は、人として当たり前のことであると思う。

B委員：北広島市民がどの程度、広島市とのそういった関係を普段から意識しているかに関わってくる。もし、広島市の灯を受け継ぎ、広島の思いを受け継ぐまちだということであればあっても良いかもしれないが、ただ突然平和と記載しても違和感があるため、平和の灯のことを書くべきかと思うが、文章の構成的に難しい。

A委員：大上段に平和とか考えるのは、別に悪くはないが、文章としては違和感がある。

C委員：第3章第4節で、平和、人権尊重等があるが、他の防災、消防、交通安全等との並びで人権尊重があることに違和感を感じる。平和、人権尊重、男女共同参画は、第6章に移動してはどうか。

事務局：事務局で検討させていただく。

【ボールパーク構想から波及する新たな価値の創造について】

B委員：ボールパーク構想から波及する新たな価値の創造というのは、基本目標6つを通じて行っていくという認識で良いか。前回の第5次の基本計画になかった文面だと思う。

事務局：骨子案を以前示したときに、ボールパークは色々なところに波及効果、影響があるので、横串を刺すような形で示した方がいいということだった。そのため、骨子案で示した第7章としてのボールパークの位置付けをやめて、各章にそれぞれ散りばめた。この状態ではどこにボールパークの件が入っているのか、わかりづらくなるため、別

ページを設けて、ボールパークに関連した施策としては、こういうものがあると、まとめたページを設けることを想定している。

B委員：前々回の委員会で、横串を入れるかたちの方が良いという話が出たと思うので、そういう案であれば了解した。

委員長：そのような方向が相応しいかと思う。

4 その他

委員長：日程の確認について、事務局にお願いしたい。

事務局：次回(第4回)は、明日(10月10日)午前9時15分から開催する。第5回は、11月25日午前9時半からの開催を予定している。

5 閉会

委員長：(閉会)

会議録署名委員
